

改題

土楽たより

どうらく

Kogure 農場 3月号 (NO23)

2012年3月10日 (火) 発行

【農暦】ピッコロファームの会の活動を開始！

○今日8日のテレビの気象予報で2月の平均気温に対し大幅に下回っていると言っていた。3月になっても周りの景色はさほど変わらない。オイヌノフグリの花がほんの僅か見る事が出来る。フキノトウは出ていない。例年に比べ遅い様を感じる。去年は仕残しの多い農作業で全く駄目だったので気持ちだけは急いでいる。だが寒いのに託^{かこつ}けて何もしていない。処理容量が不足しがちだったコンポストを買い求め畑の隅に設置したりや剪定した枝などの焼却だのと少し働いているだけである。また遅れ作業になるのではと心配になる。

○こんな調子ではあるが、先月20日にピッコロファームの会の活動を開始した。初作業は堆肥の引き込みと耕運である。ブログも開設した。意気込みは十分にある。体力と持続力が成否を決めると思っている。いろいろな活動や役割を持って活躍されている会のメンバーである。一番のキーは“やりがいのある活動”に出来るかであると思う。やりがいの指標は喜んで貰え賛同や支援を得られるかである。当たり前なことだが、自分が楽しめるかも含め大事なことである。やりがいがあればその活動は優先される。良い循環が始まる。

○ピッコロファームの会の活動の事で言えば、温床を作り、苗作りをやろうと決めたが直ぐに頓挫した。温床に必要な発酵の資材が確保出来なかったからである。今年は諦める事にした。その後の先日「現代農業」4月号が届いた。「竹炭とペットボトルで、あったかソーラー育苗」の挿絵付きの温床の記事が載っていた。やって見たい内容である。寒さは厳しくてもこれから始めるには遅い。「現代農業」の記事は、ピッコロファームの会の話題の中心に毎回なっており、ジャガイモの種の植込み方法などは栽培比較をして検証しようと思合っただけである。3月号に載っていれば間違いなく採用され実行に移されていたと思うと残念である。今は、寒く春が遠退く様な雨降りを眺めながら、農作業の実質のスタートは彼岸からのジャガイモの種の植込みからだろうと思う。もう少し間の農作業 OFF の時間を大事に使いたいと思っている。

*この紙面も含め「ピッコロファームの会」の PR させていただきます事をご了承頂きたいと思ます。ブログは「ピッコロファーム・楽農楽市」で検索できます。



＜雪の畑を望む29日＞。夜半からの雪はほぼ終日降った。雪化粧でも何となく春を感じる？。

【楽農】堆肥の引き込みなど

<ハウス> ; 無し

<畑 A> ; 堆肥の引き込み、耕運機で耕起、栗の剪定。

<畑 B> ; 堆肥の引き込み、トラクターで耕起。

【楽市】イベント交流・直売など

○グリーンジム本戸倶楽部（2月20日）次回は3月19日

ピッコロファームの会の会則を確認し1月の発足を再確認した。共同圃場は調理用トマトと実験栽培などする事にした。堆肥の引き込みに汗を掻きトラクターで耕運した。翌日栗の剪定をした。

懇親会は KU さん料理の美味、KY さんからの薩摩焼酎の差し入れもあり、いつもながら楽しい時間になった。野菜栽培のあれこれでの話題が続き深酒が気になる程であった。

○水戸自然農ネットワーク（26日）

新規に参加者が多く、新規就農した人や個々にいろいろやられている人が多い。多彩で興味深い話が聞けた。拡がりが出て来ているようで嬉しい。



<水戸自然農ネットワーク26日>自作の食材を使った1品持参の料理が並ぶ。自然の恵みの美味を一杯頂いた。

○KASA コン（3日）

スタッフのボランティアで参加した。街コンはいろいろなところでやられている様だがただ出会い場を作るだけでなく、まちづくりに繋がる企画だと思う。

孤立死のニュースが続いているが今は人の交流が少な過ぎると思う。人の交流をつくる活動は大事であると思つづく。

【つぶやき=Tweet】「ボケたらあかん」老人孝！

○川崎で行われた現役最後の職場の OB 会に参加した。この OB 会で、新年会からの各種の会が一巡した形だ。モノ忘れの話が盛り上がり？、この話題の絡みで「ボケたらあかん」国分寺市医師会報より抜粋の一部が当日の写真などと一緒にメールの添付ファイルで送られてきた。“年を取ったら出しゃばらず 憎まれ口に 泣き言に 人の陰口 愚痴言わず 他人の事は ほめなされ 聞かれりや教えて上げるけど 知っている事でも 知らん振り いつでも 阿呆でいなされや “からはじまり5節続く。模範的老人の人生の訓？である。言われる通りであるかもしれないが、こうまでしなくてはならない人生の晩年とは思いたくなる。口数の多い老人は嫌われる。自分の事も含め、そんな場面に出会う。いろいろな意味で力を失った（あっても）老人は良くは言われぬ。その通りだと思いつつも、老

人だからこうしなくてはならないでは寂しいものがある。老人は益々肩身がせまくなる。後進に道を譲りながらも元気な晩生の在り方を求めたいものである。

○団塊世代が年金世代に入って来ている。全共闘世代とも云われ、終戦から歴史観など含め価値観の大きな変遷の中を生きて来た世代である。”今の若い者は“と古代から言われ続けて来た言葉（*）だと云うが、価値観が大きく変遷する中で“今の若者は”と問うことが少ない時代であった様だ。憎まれ口は言うなど云われても、総クレマーの様な世相にあって苦言の一つは云いたくなる。この人生訓は老人向けだけの人生訓にはしたくない。

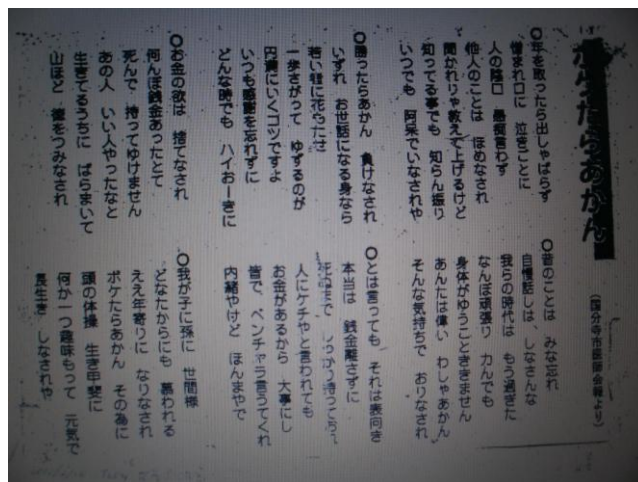
○老人を余り意識はしたくないが、最近、年齢差婚が話題になっているが、平安末期の蓮如

は50歳年下の5番目の夫人と82歳で子供を作っている。蓮如は笠間にゆかりのある親鸞の後裔である。良寛は41歳年下の貞心尼に看取られ74歳で亡くなった。大河ドラマで平清盛をやっているが待賢門院璋子の人生は弄ばれたでは表現できないすごいものがある。璋子を敬慕していたと言われる北面武士だった西行は恋歌が多い。先日、街（KASA）コンのスタッフボランティアをした。出会いが少ないと云うが、男女とも感じが良い青年が多いと思った。若い人も年寄りも人生を燃焼し生きたいものである。先人たちを学ばないでは寂しい。廃用萎縮（使わないと使えなくなる）について大島清（医学博士?）がある本で書かれていたが、頭も身体も（そして人生も）“使う程”に元気で長持ちすると云う。先人に学ぶ事が多い。

*古代の遺跡の洞窟に“今の若者は“意味のことが書かれていた。

*三寒四温というが温かい日の後の寒さは厳しいが気持ちの上でも春が遠退く様で寂しくなる。フキノトウを探して見たがまだ出ていない。春はしばらくお預けである。笠間に、kogure農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】



＜「ボケたらあかん」＞国分寺市医師会報より抜粋の一部が当日の写真などと一緒にメールの添付ファイルで送られて来た。

発行者；Kogure農場・小暮

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

メール；torao-k@nifty.ne.jp

HP；<http://homepage3.nifty.com/toragigi/>